GE Healthcare

製品安全データシート

日本

印刷日 12 11月 2008

セクション1. 化学製品および会社名

薬品名 GFP-MAPKAP-k2 vector 12Mth AEL

カタログ番後 67-6101-36

構成成分 番号 NIF2005

供給者

GE Healthcare UK Ltd
Amersham Place
Little Chalfont
Buckinghamshire HP7 9NA
England
+44 0870 606 1921

GE Healthcare Bio-Sciences KK
Sanken Bldg.
3-25-1, Hyakunincho Shinjuku-ku Tokyo 169-0073
JAPAN
+81 3 5331 9383

緊急電話番号

製品タイプ 液体。

セクション2. 組成と成分に関する情報

物質/製剤 製剤

構成成分	CAS 番号	%	化学式	ENCS	ISHL	PRTR
水	7732-18-5	99 - 100	H_2O	(9)-447x	データなし。	データなし。

セクション3. 危険有害性の要約

急性作用

吸入した場合 重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合 重大な作用や危険有害性は知られていない。
皮膚 重大な作用や危険有害性は知られていない。
眼 重大な作用や危険有害性は知られていない。

健康への慢性効果の可能性

慢性作用 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発がん性 重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性 重大な作用や危険有害性は知られていない。
催奇性 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発育への影響 重大な作用や危険有害性は知られていない。
生殖能力に対する影響 重大な作用や危険有害性は知られていない。

吸入した場合 明確なデータは無い。
飲み込んだ場合 明確なデータは無い。
皮膚 明確なデータは無い。
眼 明確なデータは無い。

セクション4. 応急措置

眼に入った場合 眼に接触した場合、直ちに多量の水で洗浄する。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。

皮膚に接触した場合 石鹸と水で洗浄する。症状が現れたときは医師の診断を受ける。

吸入した場合 もし吸入したら、新鮮な空気のある場所に移動させる。症状が現れたときは医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 摂取してはならない。症状が現れたときは医師の診断を受ける。

応急処置者の保護 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

健康への影響と症状の詳細については、セクション3を参照。

セクション5. 火災時の措置

消化媒体

適切 火災に応じた消化剤を使用する。

不適切 認知済みのものは無し。

暴露による特定の危険有害性 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり容器が破裂することがある。

有害危険性燃焼生成物 明確なデータは無い。

消防士用の特殊保護具 消防士は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具(SCBA)を装着しなければならない。

セクション6. 漏出時の措置

個人保護 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 周辺地域の人々を避難させる。 関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。 漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。

環境に対する注意事項 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。 製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。

洗浄方法 危険性がなければ、漏れを止める。 漏出区域から容器を移動する。 下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。 漏出物を廃水処理施設に洗い流すか、または以下の指示に従う。 本製品がこぼれたら、砂、土、ﾊﾞｰﾐｷｭﾗｲﾄ、珪藻土等の非可燃性の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、容器に集め、現地法に基づき廃棄する(セクション13を参照)。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。 注意: 接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

少量流出 危険性がなければ、漏れを止める。 漏出区域から容器を移動する。 水で希釈してから拭き取るか、もしくは乾燥した不活性物質で吸い取り、適切な廃棄容器に収容する。 許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

セクション7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での 飲食および喫煙は厳禁。 作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。

保管 現地法に従って保管する。 元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を防ぎ、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保存する。 使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。 いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。 ラベルのない容器に保管してはならない。 環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

セクション8. 暴露防止及び保護措置

推奨されるモニター措置 当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。

設備対策 特別な換気設備は必要ない。 全体換気装置は作業者が暴露される空中浮遊物質濃度の管理に十分なものを使用する。 もしこの製品が暴露限界を有する成分を含有する場合は、工程の密閉、工程ごとの排気設備、あるいはその他の工程管理対策を用いて作業者の空気中の汚染物質への暴露を、推奨あるいは規制された限界以下に保つこと。

個人保護

眼 リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミストあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。

手 リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。

呼吸器系 リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。 使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。

皮膚 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

衛生措置 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、前腕および顔を洗う。 汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。 汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。 作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。

環境暴露管理 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。 場合によっては排出物を許容レベル以下に下げるために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。

セクション9. 物理的及び化学的性質

物理的状態 液体。

臭い 無臭。

色 無色。

溶解度 以下の物質に容易に溶解する: 冷水 および 温水.

セクション10. 安定性及び反応性

安定性 製品は安定である。

回避すべき物質 明確なデータは無い。

セクション11. 有害性情報

急性毒性

結論/要約 人体あるいは動物に対し非常に弱い毒性がある。

慢性毒性

結論/要約 人体あるいは動物に対し非常に弱い毒性がある。

発がん性

結論/要約 人体あるいは動物に対し非常に弱い毒性がある。

変異原性

結論/要約 重大な作用や危険有害性は知られていない。

催奇性

結論/要約 重大な作用や危険有害性は知られていない。

生殖毒性

結論/要約 重大な作用や危険有害性は知られていない。

セクション12. 環境影響情報

環境作用 重大な作用や危険有害性は知られていない。

水中毒性

結論/要約 データなし。

生物分解性

結論/要約 データなし。

その他の悪影響 重大な作用や危険有害性は知られていない。

セクション13. 廃棄上の注意

廃棄方法 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。 空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。 この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。 余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。 この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

セクション14. 輸送上の注意

規定に関する情報	国連番号	輸送固有名	クラス	PG*	ラベル	追加情報
IMDGクラス	Not regulated.	-	-	-		-
IATA クラス	Not regulated.	-	-	-		-

PG*：パッキンググループ

セクション15. 適用法令

日本の取締法

火薬類取締法	データなし。		
高圧ガス保安法	データなし。		
消防サービス法	データなし。	**指定数量**	データなし。
消防法	データなし。	**指定数量**	データなし。
要届出物質	データなし。	**指定数量**	データなし。
性質	データなし。		
危険等級	データなし。		
毒物及び劇物取締法	リストに記載されていない		
特定化学物質の用途	データなし。		
労働安全衛生法	データなし。		
有機則	データなし。		
鉛規制基準	データなし。		

職業病	データなし。	
海洋汚染および海洋災害防止法	データなし。	
危険物の海上運送規制に関する通達	データなし。	データなし。
航空法	データなし。	
PRTR	リストに記載されていない	
道路法	データなし。	

化審法 （監視，特定化学物質）

成分名	**分類**

生物分解性	データなし。
魚に蓄積した化学物質の濃度	データなし。
日本インベントリー(ENCS)（既存及び新規化学物質）	全ての成分は表示されているかあるいは免除されている。
日本インベントリー((ISHL)	未確定。
その他の規定	データなし。

セクション16. その他の情報

前バージョンから変更された情報を指摘する。

ヒストリ

印刷日	12 11月 2008	**前作成日**	前もって確認されていない
発行日	12 11月 2008	**バージョン**	1

読者への注意事項

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。あらゆる物質の適合性は、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。